

甲斐市立双葉中学校 自己評価書

令和6年 1月 26日 (金) 作成

校長 「 興石 信 」 記述者 職名 (教務主任) 「 荻野 秀紀 」

学校教育目標 「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」

学校経営方針

- ・全教職員で、生徒・保護者との信頼関係の下に、生徒や地域の実態を考慮して、活力に充ちた特色ある明るい学校づくりに努める。
- ・学校教育目標「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」の具現化に向け、特色ある教育課程の編成と実施に努める。
- ・基礎的・基本的内容の指導の徹底と、定着を図る授業づくりを進める。
- ・知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。
- ・自らの個性・特性を理解し、主体的に進路選択ができる能力を育てる。また、発達段階に応じた体系的なキャリア教育の推進を図る。
- ・教育活動全体を通して、知・情・意・体の調和のとれた人間性を養い、道徳的実践力と思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。
- ・健康安全に関する理解を深め、基本的生活習慣を身につけるとともに、文化・スポーツ等に親しみ、自ら心身の健康を高める生徒の育成に努める。
- ・職員の能力・特性を活かし、協働体制による活力ある学校運営を行う。

(1) 学び合いの楽しさを育てる学習指導

- ①生徒に身に付けさせたい資質、能力を各教科等で明確にし、ICTの活用等を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ②家庭学習の習慣化等につながる学習意欲の向上を図るため、問題解決的な学習の質的向上を目指した授業づくりに努める。
- ③考える力や記述の力を高めるため、授業や評価問題の中に、生徒が自らの考えを記述する内容を取り入れる。
- ④「授業に向けて、七つの心構え」、「やまなしスタンダード」による学習規律の確立とたゆみない授業改善や、「見方・考え方」を働かせて問題解決等に向けた探究学習を行うことで、確かな学力の定着と向上を図る。
- ⑤社会に開かれた教育課程を地域に積極的に発信し共有して、「学びの地図」を踏まえながら、教科等に地域の人的・物的資源を有効活用し、連携・協働による教育活動の充実を図る。
- ⑥啓発的体験活動の充実を図り、「キャリア・パスポート」を活用して、生徒一人一人の社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力の育成に努め、主体的計画的な進路選択ができるように支援することで、将来への夢や希望をもたせ、自己の生き方を模索できる生徒を育てる。

(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成

- ①教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にする、真心の教育を進める。
- ②「至誠の鐘」、「日本一の玄関」、「朝読書」等による落ち着いた学校生活を構築し、生徒と教師が共に学ぶ教育を推進する。
- ③学校行事、生徒会活動、学級会活動、部活動等を通して、生徒の居場所づくり、絆づくりに努め、自己肯定感を涵養していくと共に、人間形成や成長発達の基盤となるように充実させる。特に学級経営の充実に重点を置き、学校全体で取り組んでいく。
- ④心の糧となる読書活動や文化芸術活動、一流の芸術や地域文化にふれる機会を通して、自らの感性を磨くと共に、相手に気持ちを伝える表現力の向上を図る。

- ⑤保護者や地域と協力して、勤労・福祉・ボランティア活動等の充実に努め、他人や仲間と共生する心を醸成し、地域愛を育み、地域に貢献する生徒を育成する。

(3) 健康・安全教育の充実

- ①自助・共助の精神を培い、安全についての実践的な能力や態度を育てる。
②健康3原則(栄養、睡眠、運動)を推進し、望ましい生活習慣の確立に努める。
③体育的行事や部活動等を通して心身を鍛えると共に、最後までやりぬく粘り強い、しなやかな心を育てる。
④登下校の安全確保、防犯に関する対応指導、防災教育の充実、Jアラート対応、授業・部活動・学校行事等の事故防止等における危機管理マニュアルの不断更新と徹底により、安全で安心な学校づくりに取り組む。また、新型コロナ対応を適切に行っていく。

(4) 愛情と信頼、生徒理解に基づく生徒指導

- ①定期的なアンケート調査、Q U調査等を生かし、生徒個々の実態を把握して、生徒に寄り添った指導を組織的・継続的に行うと共に、保護者・関係機関との連携を図る。
②生徒が発する兆候を見逃さないよう、常日頃から情報交換を行い、いじめ等の問題の未然防止・早期発見・早期対応に心がけ、問題発生時には的確な情報把握と迅速で組織的対応に努める。
③校外学習等の集団生活や体験活動を通して、社会的なマナーや規範意識の醸成を図る。
④生徒が自己有用感や充実感・成就感を味わえるような集団づくり、授業づくりの工夫に努める。また、学習相談室の機能を充実させ、家庭との連携を深めていく。
⑤全教育活動において、心と心が通じ合う教育を進め、信頼に基づいた師・友・先輩・後輩と呼べる人間関係を築く。
⑥「S T支援連絡掲示板」の活用やミドルリーダーによる校内委員会の充実により、共通理解と共通指導の徹底を図る。

(5) 信頼される学校づくり

- ①P D C Aによる学校評価を生かした教育活動の組織的・継続的な学校改善に努め、学校評議員制度を活用しながら、信頼される学校づくりを進める。
②家庭・地区小学校・地域・関係機関との密接な協力体制を確立して、双葉中教育を推進する。
③各種たより、ホームページを活用して、地域へ積極的な情報発信を行う。

1 全体評価

・教師自己評価

今年度も昨年度に続き、A B双方を合わせると肯定的評価の項目が多い。

Ⅱ. 学校運営、Ⅲ. 学習指導、Ⅳ. 生徒指導でも、A B双方を合わせると90%を超える高い数値が見られ、教職員の教育活動への取り組みの自己評価の高さがみられた。その一方でA評価(とてもそう思う)の数値は減少している。若い教職員も増え、各職員が自己評価を厳しくしていることも1つの要因かと考えられる。

・生徒アンケート

全体としてA B評価を合わせると昨年より、若干ではあるが、数値が向上している項目が多い。また、C D評価を合わせた数値も若干、減少している。「学校が楽しいですか」の項目でC D評価の数値が、年々少しずつ上昇している。「学校が楽しいですか」の数値がA B評価合わせて、77%いる。「将来に夢や希望を持っていますか」のA B評価合わせて72%いる。より充実した教育活動を展開することでこの数値をあげていくことを、課題として取り組みたい。また、個別に項目を見ていくと22番のあいさつの項目が停滞している。コロナ禍も明けたことで改善を図っていききたい。

・保護者アンケート 昨年度と比べて、横ばいの項目が多い。生徒アンケートに比べると、数値が概ね、昨年並なみである。コロナ禍が明けて、学校に保護者訪れる機会は増えたが、まだ学校の教育活動が保護者に見えづらい面があるようにも思われる。「PTA活動に参加していますか」という項目では、数値の回復が見られた。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	5項目中すべての項目で90%以上のAB評価である。2番、3番の項目はA、B評価で100%であった。5番の「職員の協力体制」が他の項目に比べて、数値が低くなってきている。
改善策	① コロナ禍が明けて、学校が以前の姿を取り戻すための1年になった。学校行事も復活したものが多く、学校運営や行事の見直し、簡素化、職員間の協力体制を見極めていく。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。 ② 学校教育目標の具現化に向けて、引き続き、協力体制を取りながら、教育活動に取り組んでいく。日々の教育活動を振り返って常に総括を行い、「チーム双葉中」の意識を盤石にしていくために、PDCAサイクルがより緊密なものにして教職員間の情報共有、さまざまな問題や事象への共通認識が確立されるように連絡体制を整えていく。
II 学校運営について	
達成状況	8項目中5項目で90%以上のAB評価である。職務について職員一人ひとりが責任感をもって協働体制をとりながら、取り組んでいる。3番、4番の項目ではA、B評価合わせて100%であった。唯一、働き方改革の項目で数値が低下している。危機管理マニュアルや校務支援については若干ではあるが、数値の改善が見られた。
改善策	① 学校の安心・安全や防災や防犯に対する危機管理が叫ばれている。大きな地震もあったので、本校でも、学校防災計画や危機管理マニュアルの内容を全職員で共有しながら、全職員の研鑽を積んでいきたい。 ② 働き方改革にも力を入れる。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。効率的な会議の運営や精選、簡素化などにも力を入れて、子供と向き合う時間の確保、教育の質の向上を図る。
III 学習指導について	
達成状況	7項目中4項目で90%以上のAB評価である。「学びの意欲を喚起する授業に取り組んでいる。」ではAB評価で100%であった。その一方でAB評価の数値が昨年に比べて、低下している項目が多い。ICTを取り入れる目的を全職員で共有して、指導と評価の一体化をめざしていきたい。
改善策	① 協働的な学びの「対話」を重視した授業に校内研でも取り組んでいるが、数値が停滞している。課題を感じている教職員が多いと思われる。 ② 新指導要領の基礎・基本の定着や、「主体的・対話的で深い学び」の実践に、課題を感じている教職員も多いが、学校体制で取り組んでいく。 ③ ICTを取り入れる目的を全職員で共有して、学びを喚起する授業をめざしていきたい。また、家庭学習の指導を引き続いて実施していく。

Ⅳ 生徒指導について	
達成状況	6項目中、5項目で90%以上のA B評価である。また、4項目で数値の上昇が見られるいじめ、不登校や支援の必要な生徒に対して組織的な取り組みの項目とキャリア教育の数値に課題が見られる。
改善策	① 生徒指導の未然防止や早期発見、対応、また不登校、いじめ、支援に関わる本校のシステムの見直しを一層進めていく。生徒の抱える課題に対して共通認識をもって、組織的かつ迅速、適切な対応ができるようにする。 ② キャリア教育の目的を全職員で共通理解して、キャリア教育に取り組む。職場体験も復活して、地域とともに歩む学校の実践にもつなげていきたい。
Ⅴ 地域との連携について	
達成状況	6項目中4項目で90%以上のA B評価である。「開かれた学校作り」の項目ではA B評価を合わせて100%であった。地域人材等の活用についての数値が改善していない。また、PTA活動は復活してきたが、PTA活動の項目にC評価をつけた職員も増えた。限られたPTA活動に参加できなかった職員がC評価をつけたかと考えられる。
改善策	① 来年度も地域人材の活用やPTA活動については、授業参観、学校開放日、PTA行事の方法や日程、内容の工夫を図り、より一層保護者や地域の要望に対して、情報収集に努めていく。 ② 学校への理解を深めてもらうために、学校HP、各種通信等による情報発信を今後も進めていきたい。
Ⅵ 学校の特色に関して	
達成状況	4項目中の3項目で90%以上のA B評価である。「時間を守る」の項目はA B評価で100%である。「読書活動」の項目の数値が減少している。時程の変更で、朝読書の時間が少なくなったことも影響していると思われる。
改善策	① 挨拶には保護者アンケートの数値も減少しており、課題があると思われる。教職員一体となって、指導していく。 ② 朝読書、整理整頓といった本校の特色についてもう一度全職員で見直し、来年度につなげる。生徒会の自治活動を推進していくことと並行して、朝読書や図書委員会の取り組みを工夫し、読書時間が増やせるように啓発を行っていく。
Ⅶ 創甲斐教育について	
達成状況	3項目中の2項目すべてで、A B評価で90%以上であった。昨年と比べても、すべての項目で数値の低下が見られる。
改善策	・対話・話し合い活動については、本年度の研究を継続していきたい。新指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の理念の軸になる言語活動や話し合い活動なので、来年度以降も職員全体で意識を共有して、取り組みを進めていきたい。

3 まとめ

○コロナ禍が明け、この3年間で多くの職員が入れ替わり、若い教職員が増えた中で学校行事が復活して、以前の姿を取り戻していく1年になった。教職員のA評価は少なくなったが、A,B評価を合わせると、全体としては、まずまずである。また、課題としてみられた項目を来年度の教育活動、学校運営につなげていきたい。（この学校評価の結果を活用していく）

〈成 果〉

- ・「チーム双葉中」で組織的に学校課題に取り組み、報告・連絡・相談の数値が上昇している。
- ・「学びを喚起する授業」の数値が上昇しており、新指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる成果である。
- ・生徒指導、学校の特色でも一定の数値が得られた。教職員が入れ替わっても、質の高い教育活動が展開されている。
- ・PTA活動が再開されているものが増えた。地域との連携もコロナ前に戻りつつある。
- ・生徒は学校の特色を理解しており、多くの活動に積極的に取り組んでいる状況がみられる。保護者も多く学校に理解を示している。

〈課 題〉

- ・ICTや協働的な学びに課題を感じている教職員が多い。来年度も校内研などで、教職員の研鑽に努めていきたい。（この学校評価の結果を活用していく）
- ・地域に開かれた学校を目指し、「学校・学年たより」やHPの情報発信に努め、保護者からの信頼を得ることにつなげていきたい。また、保護者が学校に足を運んでいただく機会もコロナ前のように増やしていく。
- ・ICT（一人1台タブレット）が導入され、4年目になった。授業でタブレットを使う場面は増加し、リモートの授業は日常的に行われるようになったが、課題を感じている教職員も多い。来年度もなお一層の研修を実施して、全職員で研鑽を積んでいけるようにする。